

レファレンス コーナー 貿易実務関連資料

横瀬美保

日本貿易振興機構（ジエトロ）にはアジア図書館のほかに、ジエトロ・ビジネスライブラリー（東京・大阪）があり、貿易、投資、ビジネス関係の各種資料を所蔵し閲覧に供している。今回は、その中から貿易実務関連資料を紹介したい。

まず、貿易業務を始めるにあたっての入口から解説されている手引書をあげてみよう。神田善弘著『実践貿易実務』（ジエトロ 二〇〇五年第八版）は、国際取引の原則、市場調査、信用状、貿易保険、外国為替などの基礎知識、輸出と輸入の手続きや認可、通信文の書き方やクレーム対策など基本事項をまとめている。もう少し大掴みに貿易実務の流れを知るには、片山立志著『図解実務入門 よくわかる貿易実務入門』（日

本能率協会マネジメントセンター 二〇〇二年）が、九九の要点に分けて図と説明文を見開きで掲載している。初心者にはわかりやすい。

輸入に限定した手引書では、永野靖夫著『輸入のすすめ方』（ジエトロ 二〇〇五年 第三版）が、準備から実行、契約、クレームまで段階を追って解説している。

規制の多い食品輸入に関しては、日本輸入食品安全推進協会編著『食品輸入マニュアル―食品を安全に輸入するために』（中央法規出版 二〇〇五年）が役立つであろう。五三の品目別に食品衛生法上の規格、基準や輸入時の違反事例、留意点などを詳しく解説している。

貿易を行う際には契約書が欠かせない。英文契約書を作成する参考書としては、野副靖人著『英文ビジネス契約書の読み方・書き方・結び方』（中央経済社 二〇〇五年）が、契約書を作成する場合の注意事項、英文契約書の構成などの説明と、契約書サンプルを掲載している。

また、国際事業開発（IBD）編『国際取引契約書式集』（国際事業開発 一九九二年）は二分冊から成り、輸出入・代理店、技術輸出、技術導入、国際合弁、会社定款、機械設備売買、建設請負、業務委託、共同開発など多岐にわたる契約書の書式を英和対照で載せている。CD-ROM版の『DRAFTSMAN II』（国際事業開発 二〇〇二年）もあり、PC上で書式と条項例を編

集して契約書を作成できる。

輸出入の代金決済に必要な信用状（L/C）の解説書としては、井上洋著『The L/C 信用状の実務手続き』（同文館出版 二〇〇四年 第三版）が、貿易取引のしくみ、輸入信用状の開設の手続き、輸出信用状に基づく輸出代金回収の手続きなどを、基本的な信用状（L/C）の見本を示しながら具体的に説明している。

国際貨物輸送の流れや通関業務についても知っておきたい。World Air Cargo編『エアカーゴマニュアル』（サンデー 二〇〇五年）は、航空貨物業務の入門書として有用であろう。

輸出入の相手国や商品を検討するには、国際見本市や展示会を利用するのも一つの方法である。ピーオーピー出版企画室編『2005見本市展示会総合ハンドブック』（ピーオーピー出版企画室 二〇〇四年）は、国内の詳細な業種別開催概要と海外の開催スケジュールを載せている。展示会場、コンベンション施設の概要もわかる。

輸出するにあたり、相手国の輸入規制を調べるには、ジエトロ編『世界の輸入規制情報源ガイド』（ジエトロ 二〇〇五年）が二カ国の輸入禁止・承認・許可、内国税、基準・認証、検査、表示などの規制情報を載せている。各国の在日公館で行う輸出の手続きについては、横浜貿易会編『各国領事の輸出規則全解』

（経済産業調査会 二〇〇三年）が、二〇一〇の国、地域の領事手続きや注意事項を掲載している。

日本機械輸出組合編『アジアの原産地規則と通関手続』（日本機械輸出組合 二〇〇四年）は、ASEAN諸国と東アジア各国の規則を解説している。

日本に輸入する際に課税される関税率を調べるには、実行関税率編纂委員会編『実行関税率表』（日本関税協会 二〇〇五年）が関税品目分類ごとに税率を掲載している。税関ホームページ（<http://www.customs.go.jp>）では最新版を随時更新している。

世界各国の関税率表はほとんどが現地語だが、中国については日本語翻訳版の、エヌ・エヌ・エー編訳『中国の関税率表』（エヌ・エヌ・エー 二〇〇五年）が使いやすい。ジエトロのホームページからユーザー登録すれば、米国のフェデックス・トレードネットワーク社の英語版のデータベース World Tariff（<http://www.jetro.go.jp/tda/tda.html>）を利用して、世界一八カ国の関税率を無料で検索できる。

現場で役立つ情報源として、ジエトロ編『ジエトロ貿易ハンドブック』（ジエトロ 二〇〇五年）は、貿易実務用語集、世界各国・地域の概要、通貨単位、時差、祝祭日、主要機関連絡先などを掲載している。

（よこせ みほ／アジア経済研究所図書館）